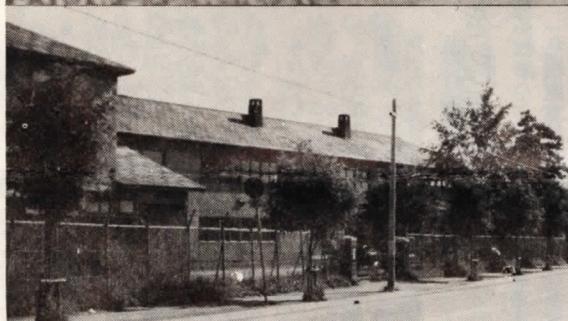


昭和49年8月  
創刊号



現在の札幌パークホテルの  
ところにあった旧市立高女は、  
昭和十二年二月二十三日に大  
半を焼失、翌十三年八月十日  
に新校舎落成、二十五年の男  
女共学制発足の際もそのまま  
使われた。写真上。

現校舎写真下は、二十  
八年十一月十三日に落成、十  
六日に移転したが、全工事が  
落成したのは三十年九月十八  
日のことであった。

同窓会々員の皆様には、ご機嫌  
麗わしくお過ごしのこと、お慶び  
申し上げます。さて、日頃何かと同  
窓会のことにつきましてお力添え  
を戴いておりますことを、まず心  
よりお礼を申し上げます。

六十有余年、伝統に輝く東高同  
窓会も、先輩諸姉の献身的なご努  
力のお蔭で、着実な歩みを続けて  
参りましたことは、誠に感謝に堪  
えないとところでござります。

幅のあることで、どの世代の方に  
も多少の不満の残る運営が宿命の  
様にも考えますが、然し出来得る  
限り会員の皆様のご意見を忖度し、  
積極的にその方向づけをして参り  
たいと考えております。どうぞ私  
共の意のあるところをお汲み取り  
下さり、更にご指導ご協力を賜り  
ますようお願い申し上げます。

また会報の発行については、今  
迄にも暫定的には出されていましたよ

## 会報の発刊に当たつて



会長 松尾 静江

一九七〇年代は色々な意味で激  
動変革の世代であり、同窓会の存  
在価値、或いは活動といったもの  
も、今一度洗い直し、見つめ直  
すところにきているようにも思わ  
れます。

一昨年の総会より、私共若輩の  
者達が役員を仰せつかりましたが  
意欲のみが先走り、未だ模索の状  
態で、力強く走り出す段階に至つ  
ております。何分にも同窓会の持つ最大の特徴は年代的に非常に

うではありますが、今回から定期  
発刊にするべく話を進めておりま  
す。今後とも編集に当たりまして  
は幹事さん常任幹事さんのお力添  
えは勿論ですが、多くの会員の皆  
さま個々のご協力で、珍しい写真  
や消息等もお知らせ預けましたら、  
はないかと存じます。

終わりに、同窓会々員の皆様の  
ご多幸と会の益々ご隆盛をご祈念  
申し上げ、ご挨拶いたします。

◆リヤカーデご帰宅

そうですね。私は、二十一  
年の二月十二日に、当時の市立高  
女に赴任して来ましてね、体育の  
木村季吉先生と同じ年ですが、以  
來四十七年までの東高在任時代、  
いろいろな先生との出会いは、樂  
しい思い出が多いのですが、やつ  
ぱり、奇人中の奇人と言えば、小  
野栖平校長でしょう。

私は現場を目撃していないんで  
すが、二十一年の私たちの歓迎会  
か、その年の新年会か、後で聞い  
た話ですが、すっかり上きげん  
になつた小野さんを、雪の中、先  
生たちがリヤカーデ自宅までお送  
りした、というんです。

「よおろしい」獨得なアクセン  
トでそう言って、リヤカーデ送ら  
れました。またそれだけ先  
生たちの気持ちが通いあつていた  
んですよ。

うれしかつたんでしょうね。  
その話を、その後もよくご自分  
でされて「アッハハハ」と、豪快  
に笑っていました。

とにかくこの小野先生という方  
は、まことに生徒を愛していました  
たな。

巣本真理はオロオロ、廊下に逃  
げ出しました。でも、演奏が終わ  
ったら、やっぱり本物の芸術に感  
動したんでしょう。記念写真をと  
りました。歓談、時を久しくし  
ました。

二十一年の三月の卒業会議で、  
当時、生徒の人物評価を文章でつ  
づる掲示会議がありましてね。と  
ころがある若い先生が、生徒を非  
難する評価をした。それを読んで  
小野さん怒りましたね。若い世代

は、その将来を見、あすを開いて  
やるのが教師の責任だ、というわ  
けです。それで、職員会議は三十  
秒で幕。

◆巣本真理一喝さる

職員会議はいつもそうでした。  
「よおろしい」のツルの一声、  
たちまち終わる。それが、かのバ  
イオリンの巣本真理を一喝してふ  
るえ上らせたことがあります。

二十三年に、生徒たちに本物を  
聞かせたいというんで招いたんで  
すが、世の中、セチ辛く  
ませんでしたよ。正しいと思った  
ら、テコでも曲げない人だったで  
すね。

それでも、小野さんの提案を、  
とうとうみんなでうまく撤回させ  
たことがあります。二十八年に、  
全学年が今の新校舎で学ぶように

なつたんですか、ね。勤務厳正の  
時代、私なんかに言わせると、そ  
れも形だけのものでしてね、職員  
室の中がギスギスし始めたのはい  
のです。だが、世の中、セチ辛く  
なつたんですか、ね。勤務厳正の  
時代、私なんかに言わせると、そ  
れも形だけのものでしてね、職員  
室の中がギスギスし始めたのはい  
のです。

三十四年から三十七年までの校  
長先生、小山田昌康先生は暮が四  
段でしてね。ずい分、私もかわい  
がられ、暮の相手をさせられたも  
のです。だが、世の中、セチ辛く  
なつたんですか、ね。勤務厳正の  
時代、私なんかに言わせると、そ  
れも形だけのものでしてね、職員  
室の中がギスギスし始めたのはい  
のです。ですが、その九日前の十日の卒業式  
にどうしても出ると言った。市立  
病院に入院していました。まあお  
医者さんもサジを投げる状態で、  
私が進行をしたんですが、事前に  
こういうわけだと生徒に聞かせて  
いたので、さすがの生徒たちもシ  
ュンとしていました。教育者の情  
熱ですよ。用意したイスを断つて、  
最後まで立つたまま告示をしまし  
た。

卒業式の名演説というか、まあ  
特に日ごろの先生を知っているせ  
いで私が特に感銘を受けたのかも  
されませんが、三十七年から三十  
九年までの江口孝校長が、淡々と  
親孝行を説きました。先生の教育  
生活最後のものでもあって、きの  
うのような気がします。

そのほか、私は直接、校長先生  
としては知らないんですが、伊藤  
員維先生も、市立高女時代の校長  
先生として忘れられない存在でし  
ようし、校長先生以外にも、いろ  
いろと思いついたさんあるんで  
すが……。



巣本真理はオロオロ、廊下に逃  
げ出しました。でも、演奏が終わ  
たら、やっぱり本物の芸術に感  
動したんでしょう。記念写真をと  
りました。歓談、時を久しくし  
ました。

とにかく、東高というのは、市  
立高女時代以来の良妻賢母型の女  
性を育てる、という伝統が生きて  
いるのか、職員室もおおらかな空  
氣でしたね。

す。用務員と間違えたわけだ。

人間味があつたと言えば、坂本

不三男校長は、四十三年の三月十  
九日に亡くなつたと記憶していま  
すが、その九日前の十日の卒業式

にどうしても出ると言った。市立  
病院に入院していました。まあお

医者さんもサジを投げる状態で、  
私が進行をしたんですが、事前に

こういうわけだと生徒に聞かせて  
いたので、さすがの生徒たちもシ  
ュンとしていました。教育者の情  
熱ですよ。用意したイスを断つて、  
最後まで立つたまま告示をしまし  
た。



昭和47年5月28日

高女第一期同期会

(札幌)



高女一期 和田みつ枝



昭和47年5月27日

高女第一期同期会 (東京)

## 楽しくにぎやかに 50周記念同期会

高女3期 上田 敏子



合でした写真。

永い五十年間のそれぞれの経験や近況をお話し合い、その後、ユーモアたっぷりの替え歌や、しぶいノドを披露する方もあり、若返つてコーラスや校歌を合唱して、

楽しい一時を過ごしました。  
歩んで来た人生は、さまざままで

林鶴恵様、板橋千代様が、また村岡谷枝様も昨年七月に他界され、また、こどし六月二十一日、ブルジルから四十二年ぶりに帰郷された竹本七キ(旧姓山口)様をお迎えし北一西二大和家に十八名が集まつて歓迎の会を開きました。

四十九年七月三十日に、市立高女第三回生の卒業五十周年記念同期会を、その昔、私達の母校のあつたゆかりの地、札幌パークホテルで開催しました。出席者は三十八名、東京、函館、旭川、日高など、遠方からの参加者も多く、まことににぎやかな会になりました。ただ、昨年(四十八年)七月のクラス会に元気に出席された杉本ときよ様が一ヶ月後に亡くなられショックでした。二年ほどの間に

# 力士キ色に塗り込まれた四年間

高女二四期

私が中島公園の傍の新築間もない校舎に入学したのは、昭和十五年で、それまでのペーパーによる入試が、受験のために健康を損ねる生徒が多くなったので、内申書

と面接に切り替わった最初でもあります。そして古い校舎の小学年で、校からビカビカ磨きたれ姿まで写る廊下に目をみはる思いをする生徒が多くなつたので、内申書たものです。当時の伊坂校長はお

掃除がとても厳しく、授業後必ず掃除の服装の点検がありました。

一年生の一学期の本試験の始ま

る日に、真球湾攻撃の大本営発表があり、風雲急を告げる緊張感に類をコワラせて、近くの護國神社へ全校生徒、白雲を踏みながら必勝祈願に行き、毎月八日は梅干だけの「日の丸弁当」になりました。

三年になると授業の内容も随分変

わり、教練の時間が増え、遂に六

クラスのうち、英語科は一クラス

社会へ全校生徒、白雲を踏みながら必勝祈願に行き、毎月八日は梅干だけの「日の丸弁当」になりました。

三年になると授業の内容も随分変

わり、教練の時間が増え、遂に六

クラスのうち、英語科は一クラス

三年になると授業の内容も随分変

わり、教練の時間が増え、遂に六

クラスのうち、英語科は一クラス

三年になると授業の内容も随分変

わり、教練の時間が増え、遂に六

クラスのうち、英語科は一クラス

一

## 昔に戻ってクラス会

高女22期 杉村 陽子



## ディスカバー青春

高女二四期 秦 泰子

卒業してからすでに二十八年、早い人は孫を得る年齢でもある。

太平洋戦争の始まつた翌年四月

入学、卒業が終戦の年の翌三月、

正真正銘の戦中派である。もう一

年早いか遅い年齢であれば少しは

自由の空気も吸えたであろうに、

在学中は、勤労学徒として、ある

者は食品工場に、ある級は分かれ

て農家の畠作業に、そして或る級

は軍服の下着縫製作業にミシンを

しましようと、固い約束をかわし

て、夜空の星を仰ぎながら、家路

への三時間、初めは氣取つてい

ました。

今後、奇数年ごとにまたお会い

期「一年四年」のクラス会を催し

たのしい歓談でした。

出席者は先生ほか二十二名、場所は狸小路「山福」栗林先生を囲んでの三時間、初めは氣取つてい

ました。

出席者は先生ほか二十二名、場

所は狸小路「山福」栗林先生を囲

んでの三時間、初めは氣取つてい



## 高女昭和23, 24, 25年卒同期会

1974年3月26日 於 すみれホテル

二年生になつて伊勢久先生の担任となり、戦争も激烈をきわめる頃、組ごとに援農班、軍隊のぼろつぎ班などに別かれ私は上幌向の援農班となつた。生まれて初めて

思えば昭和十九年四月、大東亜戦争も敗色の感を深くする頃、何も知らず大本營発表を信じ、神国日本の必勝を信ずる乙女は希望燃えて市立高女に入學し、偉風堂々たる伊坂校長の訓辭の中で「克己自強の精神」を校風として学業にいそしむ事を教えられた事が、今日まで私自身の信条の一つとして、鮮明に心の中に生き続けてい

敗戦の春、援農の思い出

高女二六期 横田  
佐和子

い思い出である。

.....

します。

御建在の三先生の

六組  
野上ヨシ先

岩見沢学大分

五組  
山田律子先

四組

三組 小野寿滿男

文

誠悦先生（国文担当）は「東高校創立六十年史」の特別寄稿の中に「戦火の日々」と題し、ろくろく勉強もせずに終戦後の混乱の社会へ旅立たせた生徒に深い憐みと温い情愛をこめてこう記されている。

「岡山県では異常な頑張りを示す子供、田舎の土から生え、根を下しているような子供を“地子”というそうだが、北海道のことばで言えば“道産子”的強靭さがこれに匹敵するだろう。そして私の生徒達（一四期生）に共通する特

筆を一言で言えば、やはりそれは異常な頑張りという事に帰するのではないか。彼女はあせらないねをあげない、黙つて耐え抜き、大ていの事にたじろがない。華やかな外見の美を求める。地味だが実質的なもの、華やかではないが、確実なものを、しつかりと手にもつてゐる。たくましい生活力を持につけていて、勤勉だがガサガサしない優しさをたたえている。在学中にロクな事をしてやれなかつた悪い教師だつたから罪ほろぼ

しにお世辞を言つていいのではない。これらの美德は、戦火の中で学業から物理的に引きはなされながら、きたえられた青春の日々のおのずからもたらしたところの美德生活に外ならないからであろう……」云々。

な人生を歩いている二四期生も、また青春を取り戻しても、おかしくはあるまい。学業、社会、家庭子供達、これらを、そろそろ仕合えてやつと自分自身となり得る時間になつたと思えばよいのだ。憶せず、あきらめず、そして美しく、第二次デスカバー青春と参るうではありませんか。

三組 小野寿滿男先生(生物担当) 故人  
四組 西村純子先生(家政担当) 札幌南高校  
五組 山田律子先生(被服担当) 西村内科  
六組 岩見沢学大分校(現在、福島)  
野上ヨシ先生(家政科担当)

明治四〇年五月一日札幌区立女子職業学校開校。  
大正九年三月三一日札幌区立実科高等女学校と改称。  
「一年三月三一日札幌区立高等女学校と改称。  
一〇〇年に新校舎落成。  
昭和一二年二月二三日校舎の大半を焼失、しかし翌二三年八月から「中島中」併置。

明治四〇年五月一日札幌区立女子職業学校開校。  
大正九年三月三一日札幌区立実科高等女学校と改称。  
「一年三月三一日札幌区立高等女学校と改称。  
一〇〇年に新校舎落成。  
昭和二三年四月一日新学制により市立第一高等学校と改称。  
「二五年四月一日男女共学制及び小学区制により北海道札幌東高等学校となり、五月一日から二、三年生も共学となる。  
「二六年六月一日東高同窓会発足。  
「二八年一一月一六日現校舎第二期工事落成、移転。  
「三〇年四月一日道立移管。  
昭和一二年二月二三日校舎の大半を焼失、しかし翌二三年八月一〇〇日に新校舎落成。  
「二二年五月一日六・三・三制実施により市立第五中（翌年から「中島中」）併置。

## 初共学

### あの新鮮な驚き

東高1期 落合セツ子

二十三年も過ぎて思い出をひとことと、言われて、ふつと鮮やかに甦ったのは、男女共学第一日教室に一步足を踏み入れたとたん鼻をついたあの異臭でした。物心ついてから十八歳の春まで男女席を同じじゅうすべからずで過ごして来た清純な乙女にとって、男女共学、それもたつた一年だけの共学は一大驚異でありました。予期せぬ見えざる臭害にむせかえりながら、講堂での朝の集会、校長先生が壇上にお立ちになるやオース！」轟然と鼓膜を通しておなかの底まで響きわたる蛮声——ガタガタ体がふるえ、まるで血の気が引く思い。それが「おはよう」という挨拶だと知ると同時に肉体

的緊張感とは反対に思わず笑いがこみ上げたものでした。右も左も男々々、授業など頭に入ろうはずもなく、落着かない日々が続いた。物心を経験していますが、あの感動の百分の一も感じ得ない高校生思つたものでした。

そのたつた一年の共学がかけがえのない尊い一年になろうとは、その頃の私達には想像も出来なかつたことでした。ユリ・ゲラーの超能力にも優るこの不思議な現象

たるや一二十有余年の歳月、それを瞬時に飛び越えて同窓会に集う男々々、授業など頭に入ろうはずもなく、落着かない日々が続いた。物心を経験していますが、あの感動の百分の一も感じ得ない高校生思つたものでした。

四八年の九月中旬、確認された住所へ向けて第一回総会の案内状を発送しました。まもなく折り返し懐かしい電話や手紙がどんどん届き、総会の見通しは大変明るいことが約束されました。

総会当日は、およそ百人集ま

しまさに私達の青春はそこから出発したものがありました。

## 十六年ぶりの出会い

東高七期

鈴木敬夫

昭和四八年十月二十八日、東高七期の総会を開きました。これは昭和三十一年に別かれて以来、はじめての出会いでありました。この起りは、四十七年秋に、札幌在住の有志がビールで乾杯した際、だれ言うとはなしに「みんなどうしているだろうか」——。ビルを飲んでいた男たちは、すでに十六年も昔の、すてきなセーラ服の女子学生のことを想い起こしました。

（北海道クリエート工業）水口勝氏（メデイカルコンサルタント）山崎義昭氏（札幌マツダ）山田達郎氏（ぎよざのみよしの店主）それにわたくし（札幌商科大学）の十人でした。

最初の仕事は、十六年間も放置

した同期生の住所録（名簿）を新

たるや一二十有余年の歳月、それを瞬時に飛び越えて同窓会に集う人の発起人の手もとにある住所録を頼りに、次から次へと紹介依頼状を発送するという方法が三ヵ月続けられ、百五十通の手紙を交換して、やっと約二百名の所在を把握することができました。

四八年の九月中旬、確認された住所へ向けて第一回総会の案内状を発送しました。まもなく折り返し懐かしい電話や手紙がどんどん届き、総会の見通しは大変明るいことが約束されました。

総会当日は、およそ百人集ま

しまさに私達の青春はそこから出発したものがありました。

